

欧米でのESG開示を用いたエンゲージメント活動

田中喜博 CMA
濱田 功

目 次

1. はじめに
2. ESGエンゲージメント活動の特性
3. 欧米ESGエンゲージメント活動の分析
4. ESGエンゲージメントのセイリエンス解釈
5. 終わりに

ESGエンゲージメントと従来型エンゲージメントとの差異を明らかにする目的で、欧米ESG投資家のエンゲージメントレポートを分析した。分析に当たっては、投資家と企業の間接関係を整理するためのセイリエンス理論を紹介し、同理論での解釈を行った。分析から、欧米投資家によるESGエンゲージメントの様相が明らかとなり、ESG開示を企業に対する要請・圧力として活用するだけでなく、その開示内容確立のプロセスへの関与もみられた。

1. はじめに

欧米でのESG開示とそれを使ったESGエンゲージメントは、日本に先行している。これは歴史的経緯に加えて、温暖化問題・地球環境問題など、社会全体としてのESG課題意識が高かったこと、各国政府主導でESG投資に関する仕組みづくりが

前倒しで進んだことなどの要因が大きいと想像される。このような社会課題を背景として、投資家はそれぞれのESG投資の所期目的に従って投資先企業へのエンゲージメントを行ってきた。本稿では海外の投資家が、ESG情報に基づいてどのようなESGエンゲージメントに取り組んでいるかを先行研究と投資家自身による開示を基にまとめた。



田中 喜博 (たなか よしひろ)

あすかコーポレートアドバイザー(株)代表取締役COO。(株)日本債券信用銀行、(株)ジャフコ、モルガン・スタンレー証券(株)を経て、2014年より現職。1989年大阪外国語大学アラビア語学科卒業。1998年ペンシルベニア大学ウォートン校経営学修士 (MBA)。



濱田 功 (はまだ いさお)

あすかコーポレートアドバイザー(株)チーフストラテジスト。経営戦略コンサルティングに従事した後、ベンチャー企業の財務・経営企画担当取締役を経て、同社の上海支社の立ち上げ・上海でのコンテンツビジネス経営を行う。東京大学理学部卒業、同大学理学系大学院修了、理学修士。カリフォルニア大学バークレー校Haas School of Business修了、MBA。